

大学技術移転協議会（UNITT）・ 産業標準化事業表彰特別シンポジウム 報告

2023年10月30日

経済産業省

1. 大学技術移転協議会（UNITT）アニュアル・カンファレンス2023

- 北海道大学で開催されたUNITT アニュアル・カンファレンス2023にて、「産学官連携で取り組む標準化戦略～日本型標準加速化モデルとは？～」と題し、戦略的標準化活動について、産学官のそれぞれの立場のパネリストと会場を交えてディスカッションを実施。
- 講堂(350席) が満席となり、臨時会場にサテライト配信。大学関係者を中心に、企業やVC関係者等が参加。

■ UNITT アニュアル・カンファレンス2023

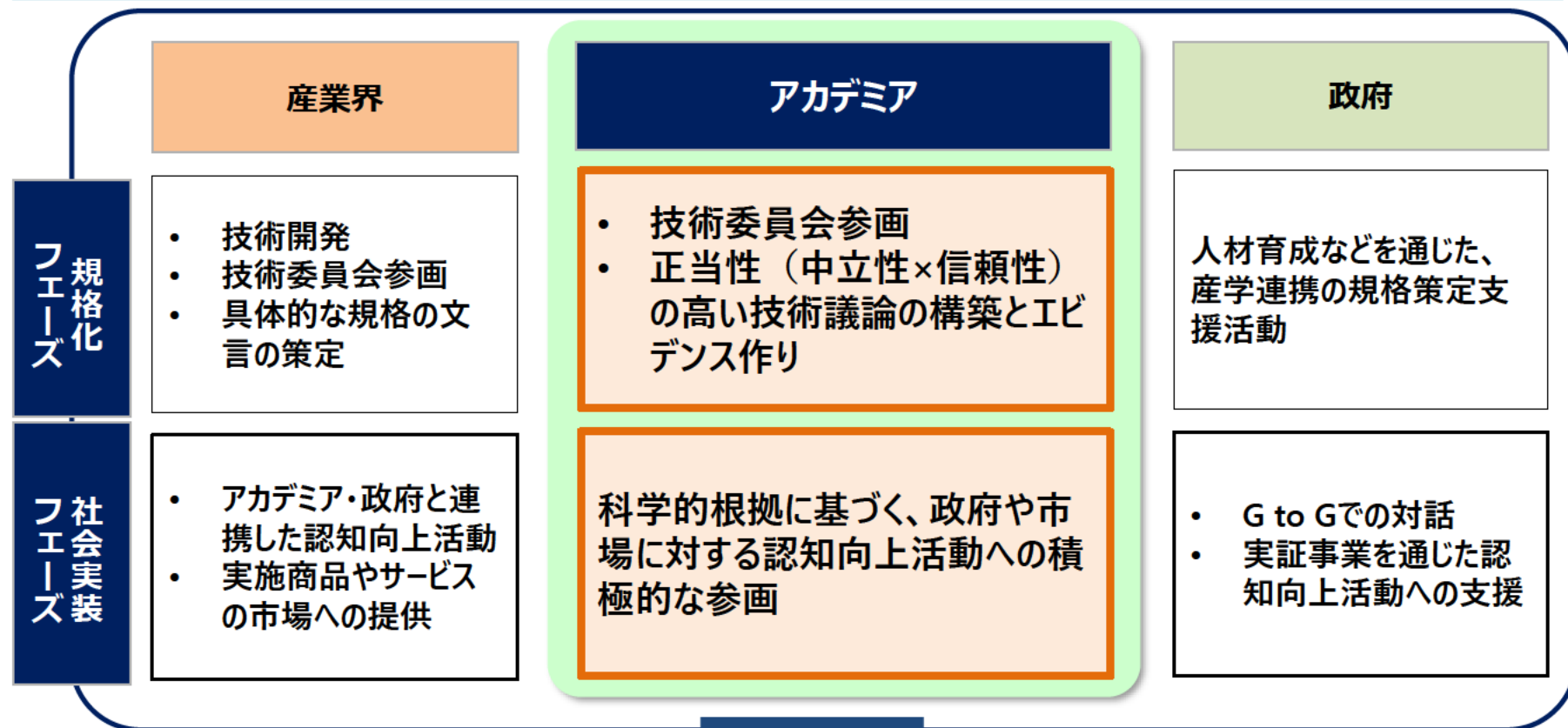
【開催日時】 2023年9月19日～21日

【開催場所】 北海道大学

➤ 「産学官連携で取り組む標準化戦略 ～日本型標準加速化モデルとは？～」の概要

モデレーター	武重 竜男 経済産業省 国際電気標準課長
パネリスト	益 一哉 東京工業大学 学長 澤井 克行 ダイキン工業株式会社 常務執行役員 馬田 隆明 東京大学 FoundXディレクター
概要	経済産業省は「日本型標準加速化モデル」を本年6月に公表した。標準化・ルール形成は、マーケティング戦略の一環であり、知財権取得、ノウハウ秘匿などと適切に組み合わせることで、市場創出・市場獲得の強力なツールとなる。特に研究開発段階からの標準化戦略は重要であり、国の研究開発事業における評価軸としても重視されつつある。標準化人材の半数はアカデミアであり、今後、ますます産学連携による標準化活動が期待される。本セッションでは、戦略的標準化活動について、産学官のそれぞれの立場のパネリストと会場を交えて議論を行う。

規格化から社会実装まで、標準化活動のすべてのフェーズにおいてアカデミアの積極的な参画は不可欠！



産官学の協業による
「日本型標準加速化モデル」の実現！



●標準化の研究面での貢献

アカデミアの専門性と中立性という特徴を活かすことで、標準化に対する研究面で貢献。

標準活動準備期間



標準化作成期間



標準化運営期間

どのようなテーマが標準化に資するかについて技術的専門家の視点から企画することで貢献
(テーマの設定)

アカデミアの国際的なネットワークを活用し、標準化に不可欠なサイエンス的な視点からのコンセンサス形成に貢献

成立した標準化を運営するために、必要な試験、検査等を実施し運営実施機関のサポート役として貢献

●標準化人材面での貢献

標準化の重要性や方法に関する教育を提供することができ、専門家や研究者を養成することで、標準化に関する専門家や、標準化に関する知識な豊富なエンジニアを供給することで貢献

アカデミアが標準化活動において貢献できるプロセスは多岐にわたる

標準化することが**目的**ではなく、標準化は産業競争力強化のための**手段**



アカデミアは、専門性、中立性で標準化活動に貢献できるものの企業と異なり**ビジネスに対しては関心が低い**。



産学官連携が必須な手段。なおかつコンセンサス形成をするためには、より**多様な参画者が情報交換できる場が必要**。



産業界とアカデミアが自然に出会う**学会の標準化活動への貢献に期待**

(参考)電気学会:国際標準化活動に関する有識者座談会 実施報告
<https://www.iee.jp/jec/about/status/2023zadankai/>

東工大益学長の資
料より抜粋

講義録画の事前配信とオンライン
講義による学習形態を用意し、全
国からの参加が可能

標準化戰略實踐コース

【出典アンケート】 2012年度 5月段階調査(12問)によるオランダ・国産別回答
 日本の経済的発展の基盤となっているのは、平均 4.8 産業でなくとも「製造業」が最も重要な要素に上ると考えられます。平均 4.8
 【受領者の国別に光栄賞、NTT、サムソン、クワイ、京セラ、富士通製作所、ソニー、島津製作所、日本理研協会、日本セコム、日本製紙、日立製作所、富士電機、パナソニック、マックス、三菱電機、株式会社、など

- 自らの標準と他社を比べていること、世界で先を行き出した企業体、過去の事例による具体論、を両面から学ぶことができ、有益でした。
- 日本の標準化活動に際しては必ずしもこれに限らずには、これまで行ってきたもののバリエーションを獲得する必要があることができました。
- 標準作りとは、品質管理、標準を作ることで安全になり、さらにパフォーマンスが上がるという点も、いろいろな観点から検討したい。

学習形態
講義による学習だけでなく、ディスカッション、グループ課題の取り組み・発表などを含む学習形態です。

グループ課題
受講期間を通して、4名前後のグループで課題に取り組み進んでいきます。学習した内容や受講生の間
接的な課題をベースに、国際標準化戦略に関する分析に取り組みます。グループ発表では、担当教員がレ
ビューを行い、発表内容について受講生を交えた意見交換を行います。

Zoom/動画配信システム
Zoomによるオンライン対話形式とCUMOT動画配信システムによる講義動画の視聴で受講します。講義動画(63分)をオンライン受ける際に視聴して、オンラインで質疑応答やチャットなど双方向の学習が中心になります。講義動画は繰り返し、視聴し放題です。

受講期間	申込期間 ※申込期間を延長し、申し込み可(2023.4.21)
2023年5月23日～9月2日 毎週火曜19時30分～17時30分 ZOOMで開講 ※受講料 (999円) は事前にお支払いをいたします。 ※5/23のみ録画配信となります(16時30分～18時のみ可受) ※9月2日はグループワーク参加費のみ14,178円(税別)です。 ※受講料の他、講座等の提出を前提としたグループ学習を想定しています。	2023年3月1日(水)～5月15日(月)(締切日必着) ※定員に達した場合は、募集が終了します。 ※定員超過または上記期間での対応が難しい場合はご連絡ください。
	申込方法 願書に必要事項をご記入のうえ、下記の住所までお送り

「標準化戦略実践コース受講申込書」を提出し、
 以下FDFファイル等、集中ファイルでの提出も受け付けます（consult@sumi-tech.co.jp）。メールの送受信をもって印刷・署名扱いとさせていただきます。

インターネットブラウザ)
※オンライン講義の受講や視聴に必要な通信環境は受講者にてご用意ください
募集人数

※受講料についてはお問合せがある場合は、メール等にて個別対応にも応じます。

説明会の動画をwebで配信しています。また、「なぜ標準化戦略が必要なのか」の模擬講義の動画も配信しています。いずれもwebサイトにて視聴いただけます。詳細および最新情報は、webサイトにてご確認ください。

実施体制

主 催：東京工業大学社会人アカデミー
事業主体：環境・社会理工学院 技術経営専門職学位課程
修了認定：修了者には東京工業大学社会人アカデミー発名の「修了証書」を交付いたします。詳細については、出席状況を含め、コースごとに行います。

多摩地区国立5大学「標準化」講義

2023年度夏学期集中講義の授業科目として「標準化」講義（2単位）を実施。本講義は、東京外語大学、電気通信大学、東京学芸大学、東京農工大学、一橋大学の学生が参加。

標準化のように社会科学を含めて様々な視点が必要となるテーマについて、多様なバックグラウンドを持った学生が参加できる取り組みは重要

ルールに縛られるか ルールを作るか

日本の将来を左右する
国際標準化（ルール作り）を学ぶ

経済産業省、産業界との連携による特別講座

電気通信大

東京外大

東京農工大

東京学芸大

一橋大

夏学期集中講座国際標準化（ルール作り）を学ぶ
2023年度 東京外国語大学で開催（一部オンライン実施）！

9月11日（月）～15日（金） 13:00～18:00

ウェブサイト



【受講生募集：集中講義】

日本の将来を左右する国際標準化（ルール作り）を学ぶ
経済産業省、産業界との連携による特別講座

現代教養科目「国際地域と社会1」2単位（対象：学部1年次以上）

産業の具体的な事例から標準化のリアルを学べる

前年度の講義内容の例

- イノベーションと標準化
- 電線・電子産業の標準化（家電 4G/LT 等）
- 国際市場を開拓する標準化戦略
- 国際（経済）交流、標準化（自由貿易協定交渉における国際標準化等）

大学連携・
官民連携で
実現した日本初の
国際標準化」講義

キャリア・
就職活動で
発想に差をつける
チャンス！

■ 期間等：2023年9月11日（月）～9月15日（金）
対面 3 時間から5 時間まで（13:00～18:00）計 15 回
※一部オンライン実施

■ 履修の方法：夏学期履修登録期間中に各自で登録

■ 窓口教員：眞由樹子 tatsumi@tufs.ac.jp

デジュール型の標準化戦略を遂行するためには、グローバルな標準化戦略が不可欠であり、そのためにグローバルな標準化活動に参加できる人材育成が必要

URAS (European Academy for Standardization) の主な活動

- ・国際的ネットワークの構築： EURASは、ヨーロッパ中心に、標準化に関する研究や教育に従事する学者や専門家のネットワークを形成
- ・会議とセミナーの開催： EURASは定期的に国際会議やセミナーを開催し、標準化に関する最新の研究成果や知識の共有を促進。
- ・標準化研究の促進： 組織は、標準化に関する研究の質と量を増加させるための活動をサポート。
- ・標準化教育： EURASは、標準化に関する教育やトレーニングの提供や支援を行っており、標準化の専門家の養成を促進
- ・標準化に関する出版： EURASは、標準化に関する研究論文や書籍の出版をサポート。ジャーナルや会議の論文集を含む。

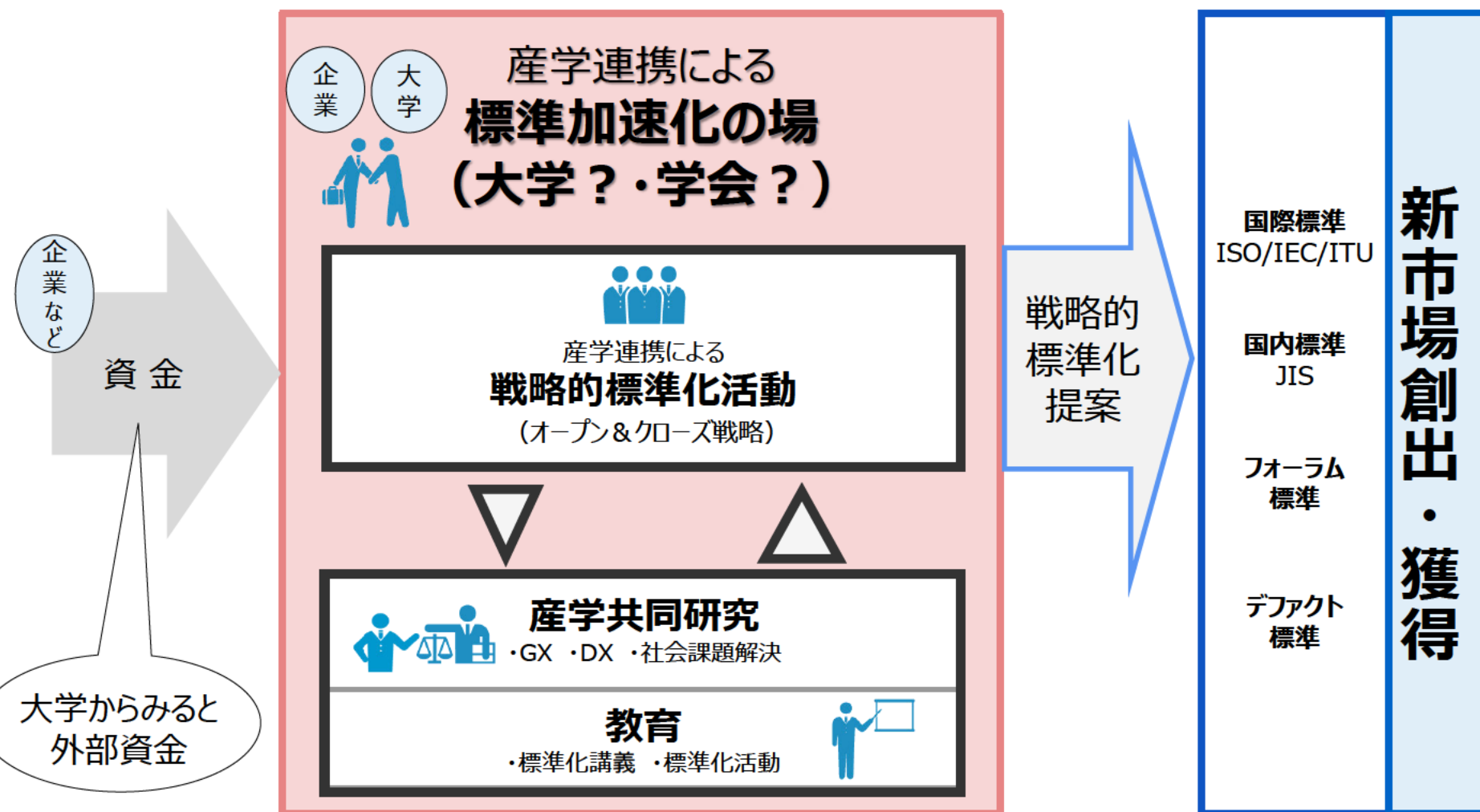


URAS等の研究機関における若手研究者の活動を支援する仕組み、経験して学んだことが生かされる機会の提供、専門性や経験が評価される仕組み等の標準化全体に関するエコシステムの構築が重要

【提案】産学連携による標準化活動（新市場創出）

経済産業
省武重課
長の資料
より抜粋

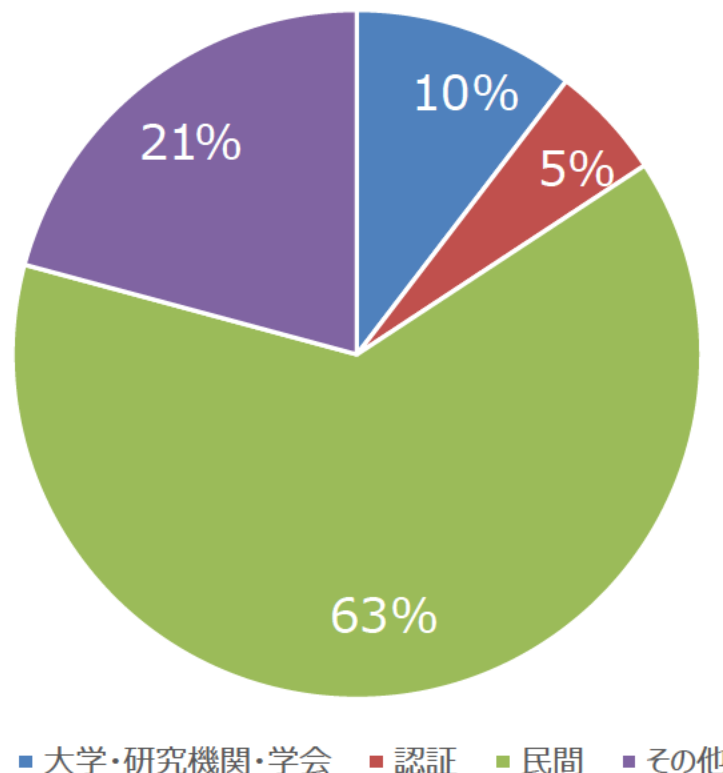
- 基盤的活動及び戦略的活動の双方を支えているのは、その学識と中立な立場を発揮できるアカデミアであり、今後も持続的な参画が期待される。
- 特に、新市場創出のために、産学連携によるオープン＆クローズ戦略の推進が期待される。



2. 産業標準化事業表彰 特別シンポジウム

- 経済産業省は、産業標準化事業表彰式と併せて標準化をテーマとしたシンポジウムを開催。標準化が市場の創出及び国際競争力の強化に直結すること、標準化における我が国のプレゼンスの維持・向上に向けて企業やアカデミアの標準化活動が重要になることを発信。
- 本シンポジウムでは、標準化に関する専門家による講演や、本年度の産業標準化事業表彰受賞者による講演を行うとともに、近年話題となっているAIを題材に、DX×標準化をテーマとしたパネルディスカッションを実施。
- 会場来場者89名、ライブ配信視聴者数379名の合計**468名**が視聴。企業やアカデミア関係者等参加。

産業標準化事業表彰特別シンポジウム 参加申込者の属性



産業標準化事業表彰 特別シンポジウムの概要

■プログラム

【2023年10月17日(火) 14:30~17:40 【東京・永田町】 都市センターホテル コスモスホールにて開催。ライブ配信も同時実施】

		講演テーマ	登壇者	概要
14:30 – 14:50	20分	①主催者挨拶及び基調講演 「日本型標準加速化モデル」	経済産業省産業技術環境局 畠山 陽二郎 局長	日本の標準化活動の在るべき姿や課題・取組事項の整理を行うため、本年6月20日に「日本産業標準調査会基本政策部会取りまとめ」として提示された「日本型標準加速化モデル」の概要等について紹介。
14:50 – 15:30	40分	②特別講演Ⅰ 「競争戦略の基盤論理」	一橋大学 ビジネススクール 楠木 健 氏	競争戦略の基盤論理として、自身の著書でも述べている「逆・タイムマシン経営論」に触れつつ、長期利益を維持し続けることの重要性、競合他社との違い・差別化を生み出すために何をしないかを決めることが戦略的意思決定であること等を論じるとともに、その中での標準化の位置づけについても言及。
15:30 – 16:00	30分	③特別講演Ⅱ（受賞者講演） 「これまでの標準化活動の経験と今後の標準化における期待」	内閣総理大臣表彰受賞者 東芝エネルギーシステム株式会社 林 秀樹 氏	内閣総理大臣表彰受賞者より、IEC等標準化活動の経験の紹介とともに、標準化がビジネス戦略のツールであること、スピードが雌雄を決定すること、物作り前から提案合戦が始まっており標準化を見越した戦略がマストであることや、人材育成の必要性などについて言及。
16:00 – 16:10	10分	休憩		
16:10 – 17:30	80分	④パネル講演・質疑有 「豊かなデジタル社会の実現へ、日本の課題と標準化の可能性」	島根大学 津本 周作 教授 日本電気株式会社 遠藤 信博 特別顧問 株式会社エクサウィザーズ 大植 択真 常務取締役 モデレーター 日経BP総合研究所 菊池 隆裕 研究員	デジタル社会のあり方に見識を持つ3名のパネリストに登壇いただき、DXが進行する世界において、大きく変わる市場メカニズムの変化や、その中で日本が競争力を高めていくための方策について、AIを例としながら、標準化という手法の持つ可能性や必要性等について議論を実施。
17:30 – 17:40	10分	閉会にあたって 「標準化活動による市場の創出に向けて」	経済産業省 産業技術環境局 西川 奈緒 基準認証統括 戦略官／国際 標準課長	シンポジウム全体の振り返りを行い、戦略的な標準化の活用という観点でオープンクローズ戦略や、経営戦略の一つのツールとして標準活動を位置づけ市場創出に向けた道筋を描くことの重要性を説明するとともに、今後の経済産業省の施策等について紹介。